



Aコープへ出荷する「郷えのき」(左)と市場出荷用「北さつまえのき」

の検討のほか、品質向上、収量増産、規格統一のための勉強を続けています。個人生産では体験できない程よい刺激と熱意をぶつけ合いながら、日々技術の研鑽に努めています。

していたこと、③会員の年齢差がなく、平均年齢が50歳と働き盛りで意気が合っていたことなどが挙げられます。その背景には、これといった産業がない地域の活性化に自分たちも貢献したいという想いがありました。

■安心安全な商品づくり
グループ結成以来、毎週水曜日の定例会では、

各生産施設での仕入れ・生産・販売計画について

グループ化により、個々では対応できない課題が、次のように解消されました。

- ①生産調整が可能となり、安定した価格と労務配分が可能となった。
- ②ロットが拡大し、品質規格の統一を図ったことから夢であったブランド化が可能となった。
- ③生産原料の共同購入や共同出荷により資材購入費や搬送コストの削減が可能となった。

このようなことから、県内Aコープと契約栽培を結ぶことができました。これはAコープの産地消の取り組みや鮮度保持のニーズと、グループの生産・出荷体制が合致したからです。「郷えのき」というブランド名で会員の顔写真入りで出荷しています。また、市場出荷用については「北さつまえ

のき茸」というブランド名で会員の顔写真入りで出荷しています。また、市場出荷用については「北さつまえ

のき茸」というブランド名で出荷しています。経営の安定化を図るため、試行錯誤を繰り返しながら苦労を重ねてきましたが、ようやく明るい兆しが見えてきて、時間的なゆとりを感じるようになりました。今後は、きのこの森づくりや花が咲き、実のなる木々の植栽など多様な森林づくりを通じて、多くの方々が無事に森林の中に入り、



いろいろな体験ができるような「きのこ村」にしていきたいと考えています。そして、少しでも自分たちが生まれ育った地域に貢献できたらと考えています。(まとめ)鹿児島県北薩地域振興局農林水産部出水支所林務水産課 林業改良指導員 池松武史

Aコープ店舗で「郷えのき」をPR、販売



北さつまきのこ村の皆さん

WE LOVE forest!
林業研究グループ

北さつまきのこ村

鹿児島県阿久根市

会員数	7名
設立	平成11年8月

■えのき茸生産者のグループ化で販売促進

「北さつまきのこ村」のある阿久根市は、温暖な気候と相まって新鮮な魚介類と四季折々に様々な農林水産物が生産されており、「自然と人が共生するまち」づくりに取り組んでいます。

グループの活動拠点となる米次集落は、阿久根市街地から南東方の山間地帯へ車で約25分走った戸数26戸の小さな山村集落であり、高齢者等を除くほとんどが地区外に働きに出ており、これといった産業のない地域です。山間の地の利を活かし、紫尾山系から流れ出るきれいで豊かな水に着目して始められたえのき茸の生産は、前身の米次婦人林産グループから引き継いだ大切な財産でした。

えのき茸の生産技術は順調に向上しましたが、個々の生産者がそれぞれ県内外の市場を中心に出荷しており、①生産調整ができないため価格が不安定であったこと、②ロットが少なくブランド化が難しかったこと、③コスト削減に限界を感じていたこと等の課題がありました。

「販売促進」をテーマにグループ化による課題の解消を提案したと

■協働共生による地域活性化

グループは、毎週水曜日の夜に定例会を実施しているほか、各種イベントでのPR活動、九州きのこ大会参加による情報収集、親睦のためのレクリエーション等を実施しています。活動がスムーズに

行っている要因としては、①えのき茸生産を主とすることで、その目標が明確で一致していること、②以前、当地域に婦人林産グループがあり、協働・共生の意識が浸透



毎週水曜日の夜の定例会では、生産・販売計画についての検討や品質向上などの勉強を行っている